

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	茶振興事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	農業課		包含する細々目	1	6	1	4	18	1	3,000
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり											
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	17	年度～	21	年度						
												地域経済活性化プログラム2007
												関連計画条例等

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	茶生産農家	販売農家数(統計上この区分しがない)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了した年度とする	
			2676	2600			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	・お茶の生産性を上げてもらう ・お茶を使用してもらう	一番茶・二番茶茶生産量(t)	18目標	110	最終目標	120	21
			18実績	114	19目標	115	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
18実績				19目標		↑	
23目標				23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	・製茶工場の老朽化のため、修理部品もなく、処理能力も低い。関連する機器を更新することにより、品質の向上と生産の安定化を図り、当該産業の育成を通じて地域の活性化を図る。 ・遠山茶利用促進のため、市内旅館やホテルへ販路を開拓し安定化を図る。(緑茶・紅茶)	18年度の実績 製茶工場関連機器更新(上村・南信濃) ・乾燥関連機器更新及び粗揉機関連機器更新 名古山地区における包種茶試作 ・一・二番茶を利用し、アドバイザーによる指導を受け実施 栽培講習会の実施 ・優良な茶とするために、整枝、茶畑管理方法について実施 ・受委託作業について検討会	機器整備数(基) 実施回数 講習会回数 検討会議	3 3 6 3
		19年度計画 製茶工場関連機器更新(南信濃) ・火入れ機関連機器更新 ・粗揉機関連機器更新 販売先の開拓 ・飯田市内のホテルや旅館への販売検討会議の開催 栽培講習会の実施 ・優良な茶とするために、整枝、茶畑管理方法について実施	機器整備数(基) 実施回数 講習会回数	2 2 4

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金	3,979	
	起債		
	その他		
	一般財源	4,682	3,000
事業費計(A)	8,661	3,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 500	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,788	0
	トータルコストA+B	10,449	3,000

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	出荷額を高める活動をする	既存農業者の産出額(農業):億円	現状値	119.3	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	139.1
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
<p>蒸機関連機器は25年前に整備されたもので修理部品が無く、機器故障による修繕に多大な時間と労力を要し生産に支障を来している。茶工場の加工能力が低いために、他工場への移送や翌日への持ち越しを行っているが、茶の品質向上のためには、受け入れ当日の加工が不可欠となっている。</p> <p>生産・販売体制を明確にし、PR活動をおこなう必要があるため。</p>	<p>お茶は比較的管理しやすいこともあり、急峻な地形、担い手の高齢化を抱える地域にとっては重要かつ安定した産業になりつつある。</p>	<p>お茶の生産については、地域住民の話し合いにおいても頻出の事項であり、地場産業として寄せられる期待は大きい。</p>

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 余地がある (その理由) 地区別の適期茶摘みの指導により、受入の分散を図ることにより効率的な生産運営を望むことができる。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり (その理由) 上村・南信濃地区における基幹産業であり、設備機器は単体として高価であること、加えて製造工程が多く関連機器数が多いことから計画的な設備更新が必要であり、故障等による品質低下や廃棄処分などのリスクを避けなければならない。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 必要性がある (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 統合不可能 (類似事業名、理由) コモンズ支援金事業
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 必要ある (その理由)		効果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 可能 (その理由) 農業協同組合、普及センターなどの関係団体と連携することで人件費の削減が可能となる。
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である (受益者とその理由) 生産者の受益が特定できる事業については、一定の負担を求めることが妥当である。

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	<p>生産団体との協議を通じて、生産性・品質向上のための施設整備を中心に導入を図る。品質は機械による影響も大きいですが、栽培段階に置いても影響があるため、継続して、茶園管理等についての指導を普及センターや生産者組合と連携を取りながら行う。</p> <p>実施年度 <input type="text" value="20"/> 具体化</p>
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による担い手の確保 ・高品質生産による生産販売額の増加

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	